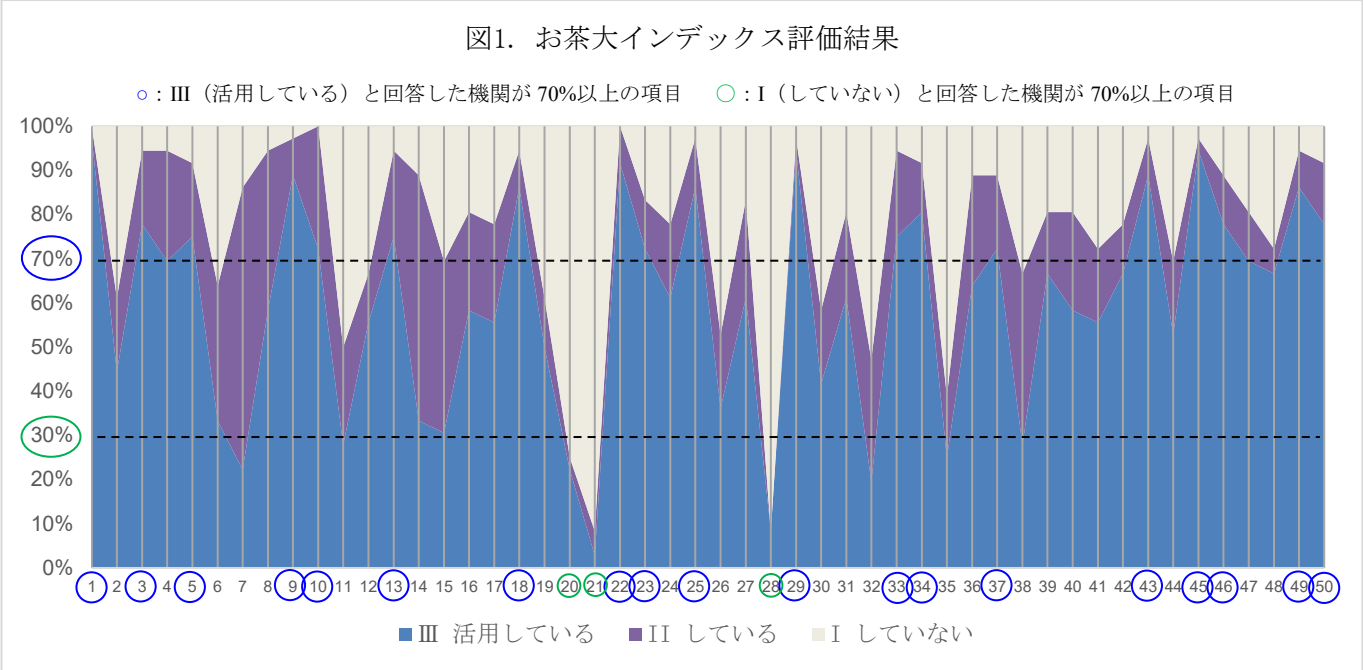


改訂版「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2024 年度結果

改訂版「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。	
調査実施日：	2025 年 3 月 17 日（月）～2025 年 4 月 30 日（水）
調査方法：	Excel で回答可能な改訂版「お茶大インデックス」をメールにて送付し、 Google フォームを用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。
配布機関：	女性研究者支援モデル育成事業・女性研究者養成システム改革加速事業・女性研究者研究活動 支援事業採択機関、およびダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ女性研究者研究活動支 援事業採択機関のうち連絡が可能であった 106 機関
回収数：	35 機関（回収率 33.0%）※本学を除く

改訂版「お茶大インデックス」評価結果：36 機関（本学含む）の回答割合と特徴

2024 年度の評価対象は 36 機関（本学含む）であり、各機関の回答をもとに 50 項目に関する 3 段階評価（Ⅰ：していない／Ⅱ：している／Ⅲ：活用している）の割合を算出した。その集計結果をもとに、全体傾向を可視化した図 1 を作成した。



36 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』と回答した機関が 70%以上の項目）、低い取組（『Ⅰ.していない』と回答した機関が 70%以上の項目）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

図 2. 活用度の高い取組および実施度の低い取組	
活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）	
(1) 女性研究者を支援する組織（本部、室、センター、部門など）の設置	一般事業主行動計画の機関内外への周知
(3) 公正で透明性の高い公募を行うための制度や仕組みの導入	(29) 研究者を支援するための研究補助者（支援員）の配置
(5) 女性を積極的に採用する制度や仕組みの導入	(33) ホームページによる情報発信
(9) 女性研究者を支援するための予算の配分	(34) 子育てや介護に関わる手続きや利用可能な支援を紹介するための冊子（WEB での紹介含む）作成
(10) 業務を効率化するための取組	(37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域とのネットワーク連携、コンソーシアム設置
(13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知・促進	(43) 機関内向け研究者支援に関わる情報発信（メール・広報誌・掲示・WEB）
(18) 保育施設（一時保育含む）やベビーシッター手配のための支援（経費支援・利用補助券配布含む）	(45) ハラスメントを防止するための取組
(22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入（時短勤務、在宅勤務など）	(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発
(23) 育児期における職務軽減制度の導入	
(25) 次世代育成支援対策行動計画や女性活躍推進対策行動計画、	

(49) ダイバーシティ&インクルージョンを理解するための意識啓発

(50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発

実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）

(20) 学童保育施設の設置（期間限定開設、他機関との連携も可）

(28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入

(21) 子育てを支援するための機関内宿泊施設の整備（他機関との連携も可）

活用度の高い取組（『III.活用している』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「1. 全学的な支援体制（組織・勤務体制（心おきなく帰宅できる体制））」におけるインデックス番号（1）、（5）、（9）、（10）、（13）の5項目、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号（18）、（22）、（23）、（25）、（29）の5項目、「3. 情報支援（情報支援とネットワーク構築）」におけるインデックス番号（33）、（34）、（37）の3項目および「4. 意識啓発（次世代育成の取組・意識啓発の取組）」におけるインデックス番号（43）、（45）、（46）、（49）、（50）の5項目があり、計19項目となった。

実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号（20）、（21）、（28）の3項目となった。

・活用度の高い取組の傾向

2024年度に「III. 活用している」と回答した機関が70%以上に達した項目は19項目であり、前年と同数であった。しかし、構成項目には若干の変化が見られた。前年（2023年度）では「在宅勤務環境の整備（24）」「女子中高生向けイベント（39・42）」「管理職向け意識啓発（47）」が含まれていたが、2024年度ではこれらが除かれ、代わりに「公正な公募制度の導入（3）」「業務効率化の取組（10）」「情報発信（33）」「ダイバーシティ&インクルージョンの啓発（49）」等が上位に位置した。

特に、以下の傾向が顕著である：a) 制度的支援の定着化：「女性研究者支援組織の設置（1）」「女性研究者支援予算の配分（9）」など、組織的・財政的基盤の整備が引き続き多くの機関で実施されている；b) 働き方改革の進展：「業務効率化（10）」や「柔軟な勤務体制（22）」など、効率的かつ柔軟な勤務環境を整える取組が拡充。これは2023年度に比べて明確に上昇傾向を示している；c) 意識啓発の深化：「ハラスメント防止（45）」「男性向け子育て支援の啓発（46）」「ダイバーシティ理解促進（49）」「ワーク・ライフ・バランス啓発（50）」といった啓発活動が高い活用率を維持しており、意識啓発分野が制度整備と並ぶ重要テーマに定着している。

・実施度の低い取組の傾向

2024年度に「I. していない」と回答した機関が70%以上に達した項目は3項目であり、前年の4項目から1項目減少した。前年同様、「学童保育施設（20）」「機関内宿泊施設（21）」「育児奨学金制度（28）」が引き続き低実施項目として挙げられた。特に、「人材バンク構築（35）」が前年から除外された点は注目に値する。これは、2023年度以降に複数機関で支援人材登録制度や外部委託活用が進展した結果と考えられる。一方で、学童保育施設や宿泊施設の整備は物理的制約・財政的負担が依然として課題であり、進展が見られなかった。

総じて、評価参加機関数・回答率ともに上昇し、取組の定着度も向上傾向がみられる。特に2024年度は、「公正な公募制度」「業務効率化」「情報発信」のように、制度運用や情報共有を通じた全学的文化形成に重点が移りつつある点が特徴である。一方で、施設面の支援（学童・宿泊）や学生支援（育児奨学金）など、空間的・財政的リソースを要する取組は依然として課題である。

以上を踏まえ、2024年度の「お茶大インデックス」調査では、前年に引き続き多くの教育研究機関が女性研究者支援およびワーク・ライフ・バランス推進に向けた体制を整備していることが明らかになった。特に、働き方改革・意識啓発・公正な制度運用の3領域が重点的に進展しており、雇用環境の改善が「制度の整備」から「文化の醸成」へと深化していると評価できる。今後は、学童保育施設などの物理的支援体制の拡充や、育児中学生・院生への支援強化が課題として残る。引き続き、これらの項目についての支援策や外部連携の仕組みを検討していくことが望まれる。

改訂版「お茶大インデックス」2024 年度 評価結果 総合得点一覧

改訂版「お茶大インデックス」2024 年度の評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 68.3 点（前回調査時より 1.4 点減）、最高点は 91 点（2 点増）、最低点は 28 点（9 点減）であった。

表 1. 2024 年度「お茶大インデックス」評価結果 （総合得点降順）

ID	「お茶大インデックス」 カテゴリー別得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援とネットワーク構築	次世代育成の取組	意識啓発の取組
007	91	17	10	12	21	8	8	15
035	88	17	11	7	21	9	7	16
010	85	15	10	8	18	11	8	15
028	82	16	6	8	16	12	8	16
017	81	18	11	6	17	11	3	15
025	81	14	6	8	18	11	8	16
047	79	18	10	6	14	9	8	14
033	78	14	8	10	15	8	8	15
031	77	15	12	4	16	9	5	16
051	77	15	8	5	15	10	8	16
080	76	15	8	5	20	9	7	12
074	75	13	8	9	17	7	7	14
091	75	14	11	11	13	5	8	13
018	73	12	3	8	18	8	8	16
026	73	15	7	5	14	8	8	16
062	73	12	8	4	15	12	8	14
お茶の水女子大学	73	15	8	5	15	10	8	12
056	70	11	11	7	10	9	6	16
082	70	13	6	10	13	7	8	13
087	70	13	7	4	18	6	8	14
032	69	13	8	5	16	11	4	12
083	69	17	7	5	9	8	8	15
061	66	9	10	7	14	6	4	16
067	66	14	9	8	13	4	5	13
069	66	14	5	5	15	11	1	15
003	63	14	7	3	14	8	3	14
041	63	11	7	8	14	8	0	15
090	63	14	9	7	12	5	8	8
022	61	7	7	10	14	9	0	14
063	57	14	5	3	10	8	5	12
059	55	14	3	4	8	8	8	10
088	54	11	7	2	9	5	8	12
034	53	14	6	6	10	10	0	7
002	42	10	8	4	12	3	0	5
053	38	10	4	4	11	4	0	5
081	28	8	4	1	6	6	0	3

自己評価結果は「機関名を表示しない」ことを条件に本学に提出いただいているため、機関名の表示は本学のみとし、その他の機関は全て ID 表示としている。本調査を実施するにあたり、35 機関の教育研究機関の皆様にご協力を賜った。心より感謝の意を表する。